

満100歳、おめでとうございます 小沼トミエさんに 知事賀寿が伝達されました

小沼トミエさん（黒谷）が満100歳をむかえられ、知事賀寿贈呈式が2月27日に只見ホームで行われました。

式では、渡部町長から賀寿状の伝達式が行われた他、お祝いの品や花束などが町議会や町社会福祉協議会、町老人クラブ、只見ホームから贈呈されました。

長生きの秘訣は「しっかり3食食べること」とのことです。

これからも、しっかり3食食べて、元気に長生きしてください。



▲100歳賀寿おめでとうございます

福島民報ジュニアチャレンジグランプリ表彰式会場で寄附を募る 角田杏さん 只見線の利活用のために町に寄附



▲角田さんは「これからもっと盛り上げる必要があります。楽しい只見線にしたいです」と今後の活動の決意を述べました

角田杏さん（明和小6年）は3月1日に町役場を訪れ、JR只見線の利活用に役立ててもらおうと町に3万6,564円を寄附しました。

角田さんは、昨年10月の只見線全線運転再開を前に沿線地域を盛り上げようと只見線全駅を自転車で巡り、その記録や感じたことを発信するため福島民報社の「ふくしまジュニアチャレンジ」に応募し、活動部門のグランプリに選ばれました。

今回の寄附金は表彰式会場で来場者から募ったもので、「只見線にずっと走り続けてほしいです」と角田さんから渡部町長に寄附金が手渡されました。

友達と只見線で思い出づくり 「只見線で行く、只見高校プチ卒業旅行」開催

「只見線で行く、只見高校プチ卒業旅行」（以下、卒業旅行）が3月1日の只見高校卒業式終了後に行われ、只見高校卒業生のうち希望者6人が参加しました。

卒業旅行は、只見駅から会津川口駅間をJR只見線に乗車し往復するコースで、列車の進行に合わせ只見線地域コーディネーターの酒井治子さんがガイドを務めました。また、各集落や駅では、地域の方が卒業生を祝福する横断幕などを飾り手を振るなどして、卒業生をお祝いしました。

参加した大竹優真さんは「多くの人にお祝いしていただいて、うれしかったです。只見線の魅力と地域の皆さんの温かさを改めて感じました」と感想を述べました。



▲ご卒業おめでとうございます

ひなまつりを楽しみました

かるがもクラブ「ひなまつり」

令和4年度最後のかるがもクラブが3月3日に行われ、15組の親子が参加しました。

始めに遊びをとおして親子の触れ合いを楽しんだ後、ひな飾りを作るなどし、ひなまつりを楽しみました。また、参加者同士で子育ての意見交換が行われたり、子どもたちがのびのびと遊んだりし、有意義な時間となりました。

なお、令和4年度に開催されたかるがもクラブの様子が、保健福祉センターの保健室に掲示されています。参加された方やかるがもクラブに興味のある子育て中の方など、機会がありましたら是非ご覧ください。



▲令和4年度最多の参加者数となりました

冬の只見町を見る

ブナセンター自然観察会「積雪期のブナ林観察会」



▲雪上で紙谷館長の解説を聞く参加者

只見町ブナセンターの主催で「積雪期のブナ林観察会」が3月11日に開かれ、深沢集落内及びその周辺に広がるブナ林などで、ブナの大木や冬芽、冬の雪食地形を観察しました。

観察会には、ブナセンターの紙谷館長が同行し、ブナの受粉方法やその特性にあわせたブナ林保全の在り方、豪雪の圧力によるスギとブナの根曲がり、また根曲がり材の特殊性について解説しました。

参加者は、かんじきやスノーシューなどを装着して雪上を歩き、観察会をとおして冬の只見町を満喫しました。

日本農業賞「食の架け橋の部」

合同会社ねっか「特別賞」受賞

全国農業協同組合中央会などが主催する「第52回日本農業賞」の「食の架け橋の部」で、合同会社ねっかが「特別賞」を受賞しました。

合同会社ねっかは、過疎や高齢化、稲作農家の担い手不足などの課題解決に向け、只見産米と水を使った米焼酎「ねっか」を製造しています。また、地域に子どもたちが残って欲しいとの思いで、子どもたちに田植えや稲刈りの体験する機会の提供もしています。

これらの取組みが、農業者と消費者を結ぶ優れた活動や未来の豊かな生き方、地域づくりのヒントとなる活動として認められ、「食の架け橋の部」の特別賞を受賞しました。



▲脇坂さんと三瓶さんは「子どもたちのSDGsの取組みに農業者としてできることをやってきた結果で、子どもたちのおかげでいただいた賞です」と話しました

持続可能な地域社会の発展のために

「只見ユネスコエコパーク推進協議会」開催

「第16回只見ユネスコエコパーク推進協議会」が3月15日に只見振興センターを会場に開催されました。

協議会では、各構成員から令和4年度のユネスコエコパーク事業活動の報告があり、自然環境の保護・保全や、人材育成・調査研究、地域社会の発展に関する多様な事業が共有され、それらに対する意見交換が行われました。

また、只見町がユネスコエコパークに登録されてからの経過や取組みをユネスコに報告するための報告書作成のスケジュールや国道289号八十里越の開通に向けての取組み、ダム堆砂処理についての協議が行われました。



▲SDGsへの関心も高まる中、只見ユネスコエコパークとしてどのような取組みを行うのかなど活発な意見交換が行われました



▲感謝状の伝達を受けた角田さん(右)

只見町の自然を守る

角田朋之さんが 知事感謝状を受賞

福島県自然保護指導員に対する知事感謝状の伝達式が3月16日に南会津地方振興局で行われ、角田朋之さん（小林）が感謝状の伝達を受けました。

角田さんは、福島県自然保護指導員として、浅草岳や会津朝日岳などを含む担当地域において、美化清掃活動や訪問者の安全確保の活動を行い、担当区域の自然環境の保全に尽力していることが認められ感謝状が贈られました。

冬の只見町を楽しむ

「ただみスノースポーツフェスティバル」開催

NPO法人ただみコミュニティクラブの主催で「ただみスノースポーツフェスティバル2023」が、3月19日に亀岡サンドバレーコートで行われました。

開会式後、渡部町長と平山理事長による始球式が行われました。

会場では、雪上バレーボールや雪上フットサルの他に、雪上フレスコボールや雪上スパイクボールなどが行われ、参加者は雪上でのスポーツを楽しみました。



▲参加者は「雪上での競技は普段とは違う楽しさがありました」と話しました

フレスコボール…味方同士でボールを落とさずにラリーを楽しむスポーツ

スパイクボール…中央に置いたトランポリン状のネットにボールをバウンドさせて、バレーボールのように最大3回までのタッチで相手に返球してラリーを楽しむスポーツ

只見町で初の大学生サミット

「大学生サミット2023 in ただみ」開催

令和3年度から4年度まで只見町で様々な取組みを行った大学生（団体）による報告会「大学生サミット2023 in ただみ」が3月20日に開催しました。

第1部では、福島学院大学木村ゼミ、福島大学 F-cation サークルホップ、東北芸術工科大学建築環境デザイン学科、宇都宮大学 D-friends、^{エフケイション} 緋熊と黒潮の5団体が、SNSを活用し集落の情報を発信する取組みや、三石神社の参道整備の取組みなどについて報告しました。

第2部では、「学生団体と只見町の関係を持続させるには」のテーマでワークショップが行われました。ワークショップでまとめられた内容は、大学生や地元関係者からの意見として、町へ提出される予定です。



▲報告をする学生の皆さん

あの感動から1年、感謝の気持ちを込めて

只見高校野球部甲子園出場記念プレート贈呈式



福島県立只見高等学校野球部
甲子園出場記念プレート贈呈式

▲大堀相馬焼錨屋窯代表の山田さんは「只見高校の試合に大変感動しました」と話しました

只見高校野球部の第94回選抜高等学校野球大会出場（以下、センバツ）を記念したプレートの贈呈式が、1年前に只見高校野球部が甲子園で試合を行った日に合わせ、3月22日に行われました。

贈呈式では、只見高校野球部甲子園出場後援会から、野球部がセンバツに出場した記念と関係者への感謝を込めて、長谷川監督、只見町、只見高校、応援に駆け付けた柏市にプレートが贈られました。記念プレートは、大堀相馬焼錨屋窯で制作され、当時の出場メンバーや監督などの名前とともに、疾駆する走り駒が描かれています。

只見線をとおした町の活性化のために

只見高校生が町に寄附

只見高校の総合的な探究の時間の只見線商品開発班（以下商品開発班）に所属する只見高校生2年生の大竹未桜さん、鈴木詠大さん、永山權都さん、山本愛佳さんが役場を訪問し、寄附金11,520円を寄附しました。

今回の寄附は、商品開発班が企画し開発した商品「只見線まぐねっと」の売上の一部から、寄附されたものです。

寄附当日は、都合により、リーダー目黒元基さん、副リーダー川崎岳さんは参加できませんでしたが、皆で只見線を盛り上げたいという気持ちで寄附に来庁されたそうです。



▲寄附に訪れた4人は、「デザインをいくつか考えて、中でも只見線の商品として個性あるものになりました。思った以上の評判に驚きました」と話しました。